



おいしく楽しく食べ続けるために

～QOLアップの為に多職種連携～

社会福祉法人賛育会 相良清風園

相良清風園紹介

2001年設立 3階建構造

1階 デイサービス

2階 特養 37名

3階 特養 13名 ショートステイ20名

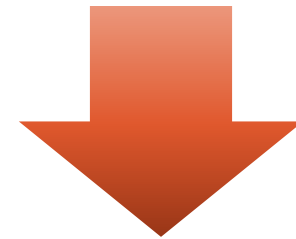
平均介護度 3.98 (2024.5現在)





2014年

肺炎により入院した利用者が15名
入院率30%



危機感

口腔ケアの状況

口腔ケアは
夕食後のみ

歯科衛生士
任せ

入所者の口腔内
汚れあり

歯科衛生士の
ケア時間が不足

食事の姿勢に
意識が薄い

口腔ケア定着に向けての取り組み



感染性胃腸炎の大流行



歯科衛生士の指導により・・・

歯磨きの方法・姿勢保持の大切さを学ぶ口腔ケアの職員勉強会実施



施設全体で衛生と口腔ケアに対する意識改善

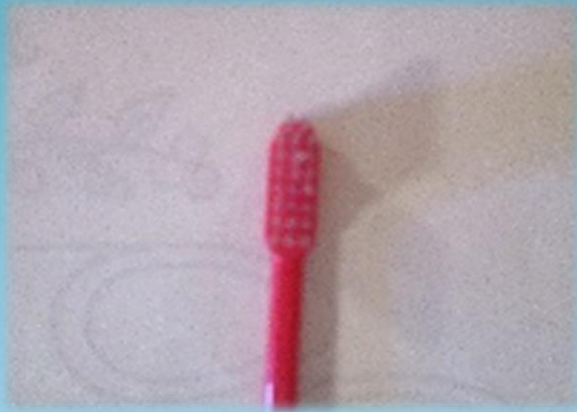
口腔ケア方法の見直し 介護課

- ①歯科衛生士の介入時間の延長、回数を増回
- ②物品の変更
 - ・口腔状態に合わせた歯ブラシの準備
 - ・使い勝手がよく感染予防できるグローブに変更
- ③食事姿勢の見直し
- ④職員の立ち位置の把握
- ⑤毎食後の口腔ケア実施



口腔物品の種類と使用目的

①歯ブラシ



②ワンタフト



③クルリーナ



④義歯ブラシ



⑤義歯安定剤

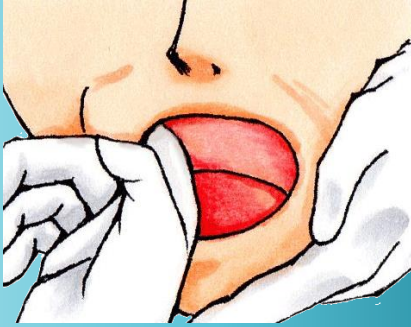


⑥保湿剤



口腔マッサージ

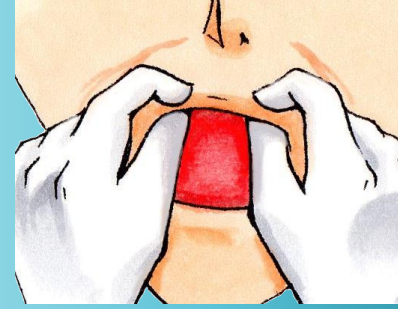
①ほぐれい線の
マッサージ



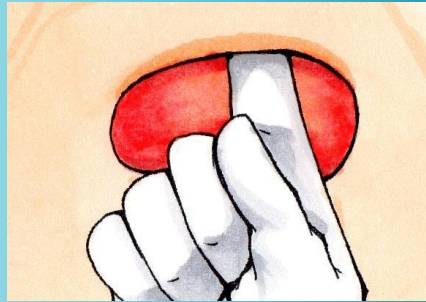
②舌を押す
マッサージ



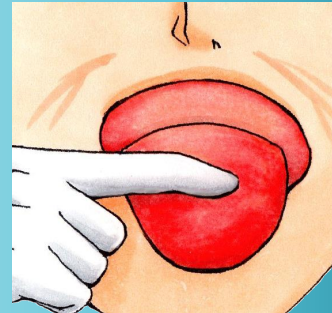
③上唇の
マッサージ



④上顎の
マッサージ



⑤食後、舌や
口腔内に付ける





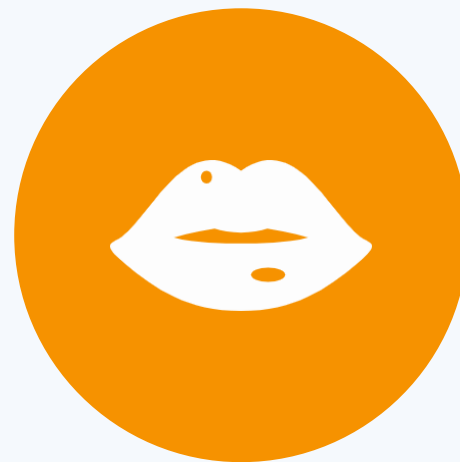
短時間でやりや
すく効率を求め
る方法に変更

毎食後の継続が
可能となった

次の段階へステップアップ



歯磨き、口腔清掃を取得



摂食嚥下障害（むせ、鼻汁、飲み込みの不安の人、
遅延の起きる人、咽頭残留の起きる人）への
アプローチ方法を共に学び始めた

アプローチとしては多職種連携し、食事姿勢、食事形態、口腔マッサージ、口腔体操等を実施

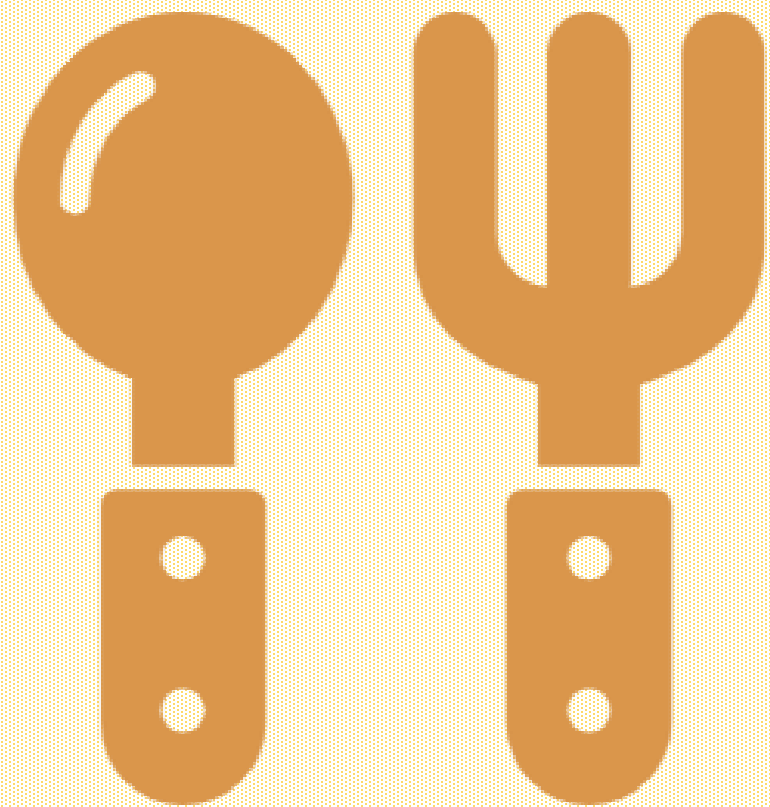
機能訓練指導員



利用者の身体に関する専門知識
食事姿勢の検討
身体機能維持のための活動



管理栄養士



食事に関する専門知識
ミールラウンド
食事に関するデータ管理

看護師



医療的知識の提供
食事形態の検討
食事量の検討

歯科衛生士



- 口腔に関する専門知識
- 口腔ケアのやり方、用具の検討
- 口腔ケアに対するアドバイス

相談員・施設ケアマネ



本人・家族のニーズ・課題
の抽出

各専門職と連携・調整

口腔ケアの必要性・効果・
加算の説明

多職種連携の効果

- ① 進捗状況の報告、相談。
- ② 成功体験が重なり、多くの職員が自発的に取り組む。
- ③ 誤嚥性肺炎予防に向けての取り組み。
- ④ 月1回の委員会とミールラウンドを実施。
- ⑤ 利用者個々に合わせたサービス提供可能。
- ⑥ 介護員の技術、観察力が向上。
- ⑦ ミールラウンド、委員会等を通じ多職種とより有効な話し合いができるようになった。
- ⑧ 食事摂取困難な利用者から希望が聞かれたときは、ご家族の了承と主治医の指示の下、関係職種が連携し、利用者一人一人のQOLアップに前向きに努めるようになった。



利用者にとってよりよい食事提供ができるようになった

現在の入所者の口腔状態

常時湿潤でよい
口腔環境を維持

歯科衛生士からも
よい評価を得ている

QOLアップへの取り組み 事例1

要介護4 女性 91歳

食後の残渣物多く、誤嚥に配慮しミキサー食を提供

強い空腹の訴え続く

食前の口腔マッサージ、使用する食器の見直し

覚醒状態の改善

主食：粥 副食：きざみ食に変更 **食の満足度アップ！！**

QOLアップへの取り組み 事例2

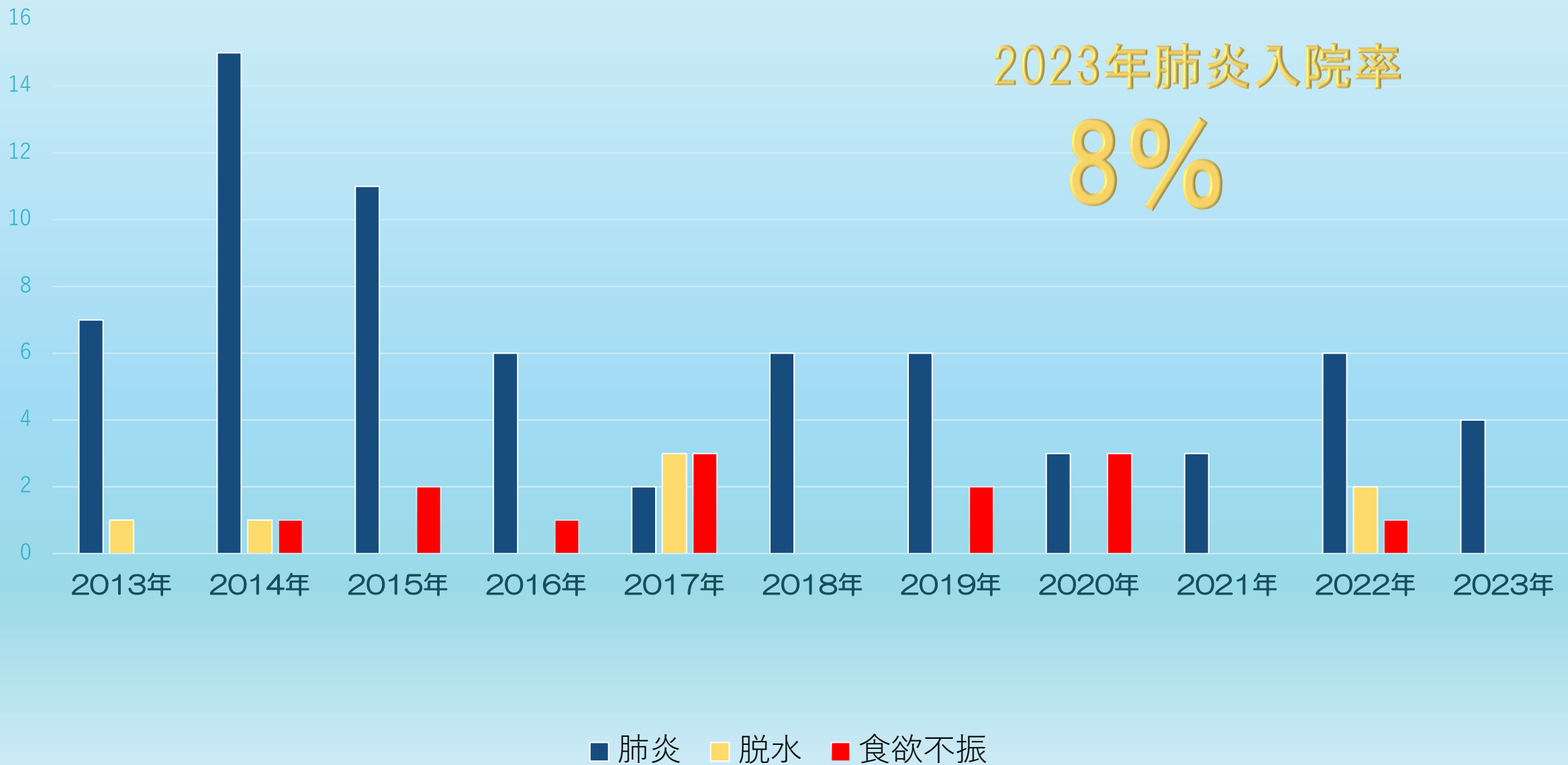
経管栄養

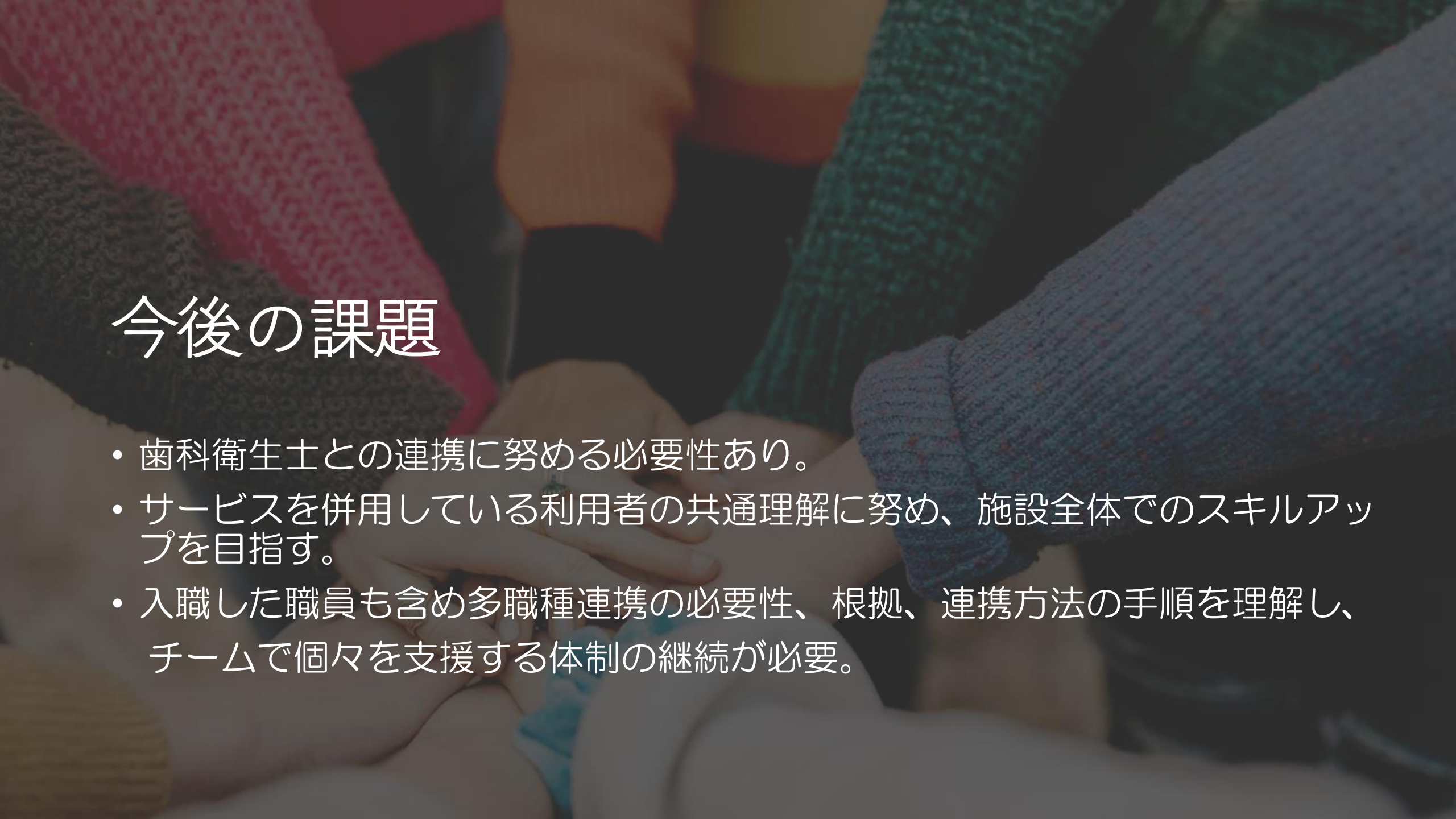
ステーキが食べたい 

口腔マッサージ継続
摂食嚥下外来受診により専門的なりハビリに努めた

口からの摂取開始：ゼリーを試行

年別入院者数





今後の課題

- 歯科衛生士との連携に努める必要性あり。
- サービスを併用している利用者の共通理解に努め、施設全体でのスキルアップを目指す。
- 入職した職員も含め多職種連携の必要性、根拠、連携方法の手順を理解し、チームで個々を支援する体制の継続が必要。



ご清聴ありがとうございました。